



認知症フレンドシップクラブ

アニュアルレポート 2014/2015

認知症フレンドシップクラブ

アニュアルレポート 2014／2015

contents

04.05 求められる地域のグランドデザイン

06.07 「まちづくり調査」から見えてきたこと

08.09 STORY 1

社会を動かす認知症の人の声

10.11 STORY 2

キーワードは、普通の“おつきあい”

12.13 STORY 3

認知症フレンドリーコミュニティ 日本の現状

14.15 事務局活動報告

16.17 2013/2014 活動カレンダー
決算報告、メディア掲載

18.19 参加方法、謝辞



【表紙写真】品川事務局が開催するフレンドシップカフェの様子。“認知症カフェ”など、認知症の人もまざり交流や対話をする場の重要性が指摘されています。

認知症になっても 変わらない暮らしが できるまち

つながる
希望
チャレンジ

認知症フレンドシップクラブは
「認知症になっても安心して暮らせるまち」を作ろうと
アクションを起こす人の全国ネットワークです。

代表あいさつ

昨年度、本団体初めてのアニュアルレポートを創刊しました。これは、認知症フレンドシップクラブという団体が、過去1年間で何を目指し、それに向けて何をなしてきたのかを社会的に公表する、いわば我々自身の成績表のようなものです。フレンドシップクラブは、会員の皆様方が納めてくださる年会費を基本に、ご寄付や助成金によってその業務を運営しています。アニュアルレポートを見ていただき、活動に関する成績をご評価いただくのは、まさにそうした私たちの活動を支えてくださっている方々に他なりません。襟を正しつつ、ご評価いただいた結果を真摯に受け止めていきたいと思っています。

フレンドシップクラブは、活動の一つであるRUN伴の増加を受け、ここ数年で全体規模を急速に拡大させている現状があります。昨年度、時にそのスピードに対応しきれず後手後手に回ることや、ローカルでの具体的活動に注目するあまり目指すべき全体としてのビジョンを見失うようなことがあったかもしれません。しかし、「認知症を生きる人たちが安心して暮らせるやさしいまちづくり」という目標は、ブレることなく常に掲げられています。

フレンドシップクラブでは今後も、各地域におけるローカルな活動拠点でのつながりと、日本全体でのトータルなつながりを生みだしつつ、地域に暮らす人々の必要を満たしながら、地域社会の変遷を引き起こしていきたいと考えています。このアニュアルレポートから、そうした本団体の方向性を少しでも感じていただき、今後のさらなる活動にもご期待いただけたら幸いです。

認知症フレンドシップクラブ 理事長 井出訓

認知症の人の行方不明の課題を例にすると・・・

認知症の人が安心して移動できるための仕組みは？
高齢者や子どもも安心して移動できる町のデザインは？
企業やセクター横断で新しい事業を創造できないか？

事故が起こらないように安全対策を強化するには？
事故が起こったら、誰の責任？損害賠償は？
事故を起こさないよう効率的に監視する仕組みは？

DFJC 認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ
http://www.dementia-friendly-japan.jp/

認知症フレンドリー社会 VS 認知症対応社会

基本理念 誰もが普通に暮らせる社会の設計	社会的負荷の軽減
取り組みの主体 当事者・家族・自治体・企業・福祉など	専門家
取り組みの内容 認知症の人と一緒に考える各セクターのチャレンジ商品サービスの創出	正しいケア住民の啓発・活用企業は社会貢献アプローチ
成果指標 認知症の人のQOL 社会環境のフレンドリー度 認知症の人の声の反映度	事件・事故や「問題行動」の減少 介護者の負担軽減

認知症フレンドリー社会のイメージ

各地での対話を通じて抽出されつつある「認知症フレンドリー社会」のイメージ（作成：認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ）

認知症の人自身を問題ととらえるのではなく、課題を引き起こす環境や私たちの意識のあり方について、改善をしていくことの重要性が共有されつつあります。

求められる地域のグランドデザイン

認知症の人の視点の重視が柱となる「新オレンジプラン」が策定

2015年1月、日本の認知症国家戦略とも言える新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）が策定されました。これまで主に医療やケアの供給側の視点で設計されていた施策に、初めて認知症の人の視点の重視が掲げられ、厚労省だけではなく、他の省庁も含めて総合的な取り組みを目指す内容となっています。

認知症の課題が待ったなしであること、そして、より多くの人が関わっていく必要について多くの人が同意する一方で、どのような社会をつくっていくのか、未来の地域の具体的なイメージについては、まだ明らかではありません。認知症の人の声やニーズをどのように把握するのか、認知症の人も参加した地域づくりとはどのように進めるのか、地域の課題を解決するためにはどのような人や組織が関わる必要があるのか……、目の前にある個別課題への対処だけでなく、どのような地域を作っていくのか、地域のグランドデザインが求められています。

認知症フレンドシップクラブでは、各地の事務局をハブとして、それぞれの町で、認知症の人自身も参加し、行政、医療介護関係者、地域住民、商店街・企業などと一緒に、どのようなまちをつくるか、対話をする取り組みを続けています。

旅のことは

認知症とともにによりよく生きるためのヒント

旅のことは カード

認知症とともにによりよく生きるためのヒント

なじみの居場所

ともに歩む

自分の日課

ちよっとしたことでも毎日コツコツと。

ほかの人にしてもらうことが多くなってきました。

▼そのとき

認知症フレンドシップクラブのメンバーも制作に協力した『旅のことは 認知症とともにによりよく生きるためのヒント』（井庭崇・岡田誠編著・丸善出版）

個人として認知症とつきあう工夫だけでなく、今後目指すべき社会や地域のイメージについて、数多くのヒントが掲載されています。

旅のことは 認知症とともにによりよく生きるためのヒント

新オレンジプラン

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進

認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、という副題が付いた、『新オレンジプラン』では、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」という地域づくりの推進が盛り込まれました。

V 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

【基本的な考え方】

生活の支援（ソフト面）、生活しやすい環境（ハード面）の整備、就労・社会参加支援及び安全確保を行い、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりを推進します。

（1）生活の支援（ソフト面）

一人暮らし高齢者や夫婦二人のみ世帯が増加するため、買い物、掃除などの家事、買物弱者への宅配等のサービス提供の支援、高齢者サロン等の設置を推進します。

（2）生活しやすい環境（ハード面）の整備

サービス付き高齢者向け住宅など、多様な高齢者向け住まいの確保の支援、公共交通施設や建築物等のさらなるバリアフリー化の推進及び高齢者の移動手段を確保するための公共交通の充実を図ります。

（3）就労・社会参加支援

高齢者の方が生きがいを持って生活できるよう、就労、地域活動やボランティア活動等の社会参加を促進します。

（4）安全確保

独居高齢者の安全確認や行方不明者の早期発見・保護、詐欺などの消費者被害の防止を目的に、地域での見守り体制を整備します。また、認知症の人や認知機能が低下している人による交通事故を未然に防止するための制度の充実、交通安全の確保を推進します。さらに、高齢者の尊厳保持のため、高齢者虐待の防止と身体拘束ゼロの推進を図るとともに、認知症の人や高齢者の権利擁護のため、成年後見制度等の周知と利用促進を行います。

新オレンジプランの7つの柱

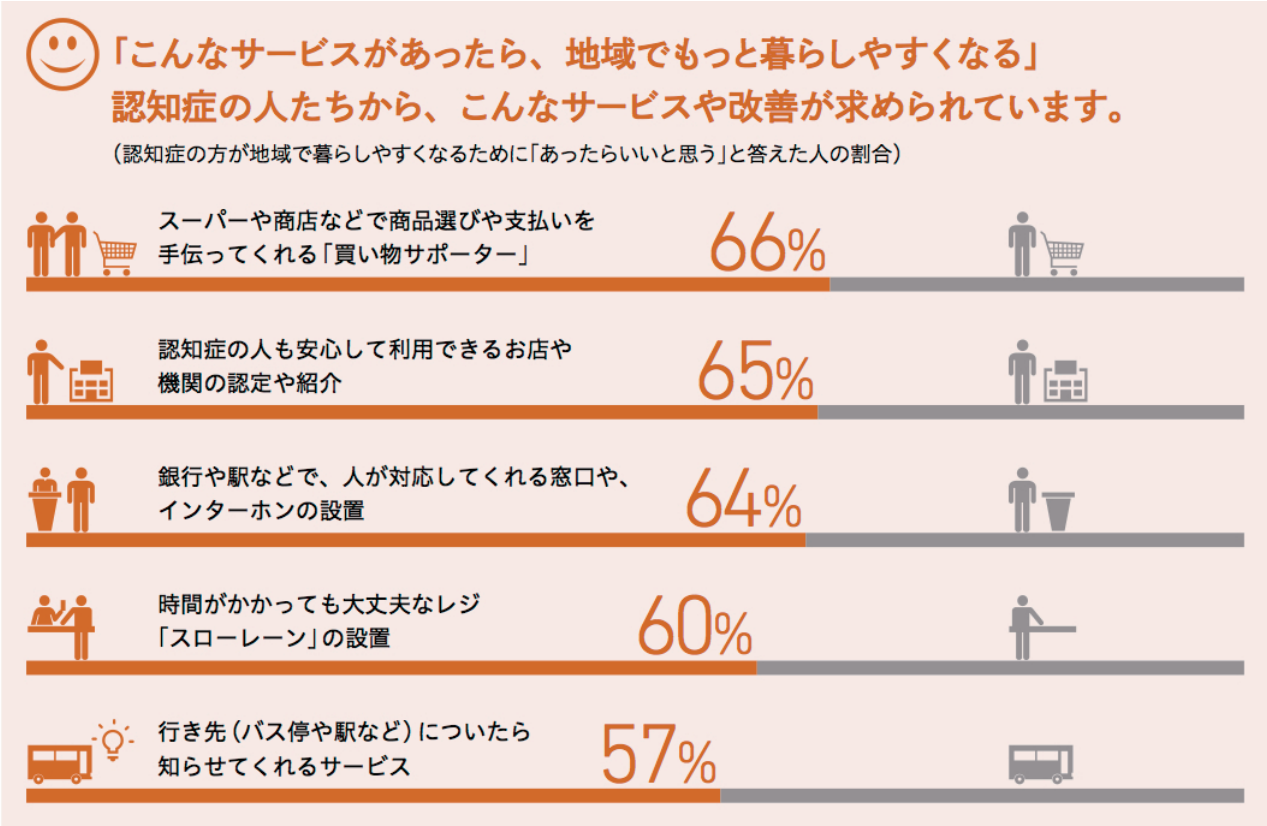
〇「認知症高齢者等にやさしい地域づくり」を推進していくため、以下の7つの柱に沿って、施策を総合的に推進していきます。

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進

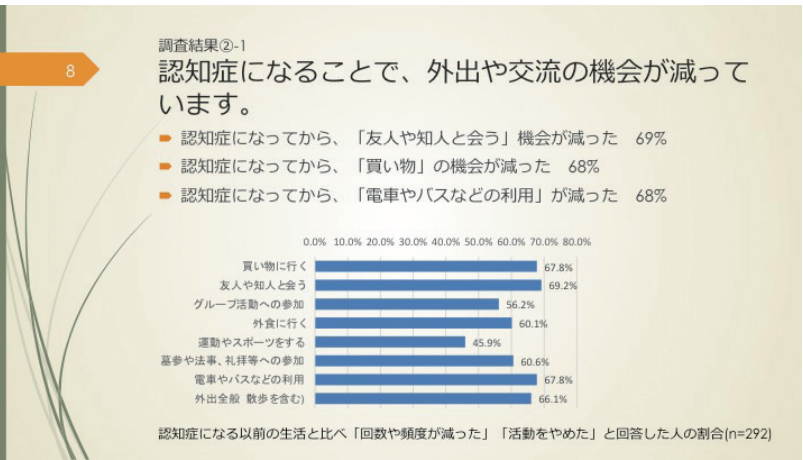
I 普及・啓発
II 医療・介護等
III 若年性認知症
IV 介護者支援
V 認知症など高齢者にやさしい地域づくり
VI 研究開発
VII 認知症の人やご家族の視点の重視

「VII 認知症の人やご家族の視点の重視」は、他の6つの柱に共通するプラン全体の理念でもあります。

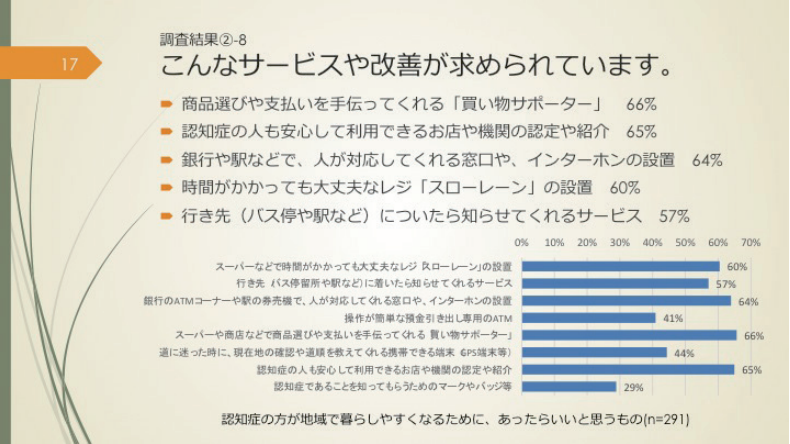
出典：厚生労働省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）pdf」



出典：「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」



認知症フレンドシップクラブでは、こうしたまちづくりに関する知見や基礎データ集めを継続し、今後の社会と必要な取り組みについて考えていきたいと思っています。

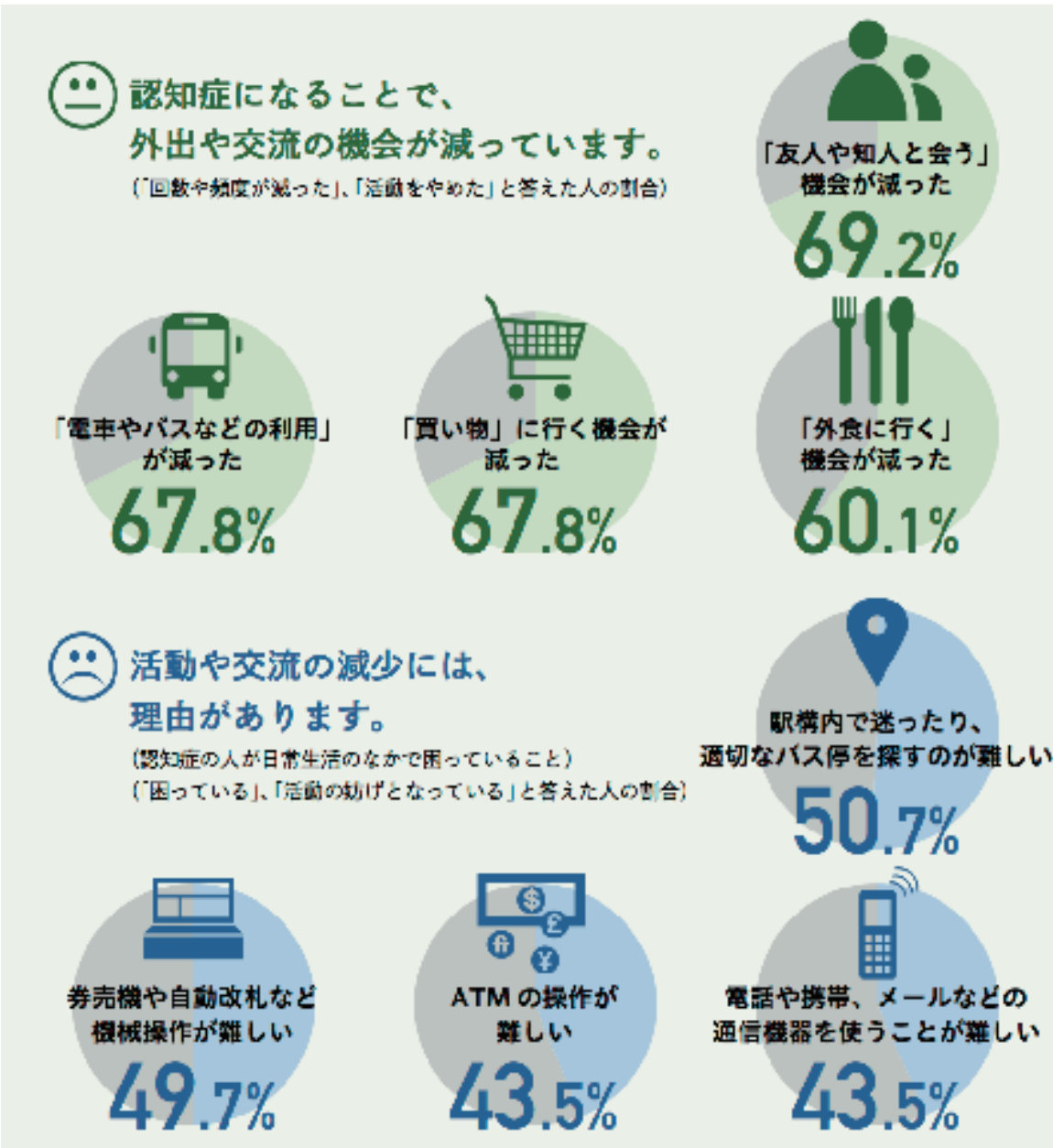


「まちづくり調査」から見えてきたこと

認知症の人から見たまちの現状と課題

2015年2月、認知症の人にやさしいまちづくりに関する調査結果が発表されました。本調査(平成26年度厚生労働省老人保健健康増進推進事業「認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業」実施主体・国際大学グローバル・コミュニケーション・センター／認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ)には、認知症フレンドシップクラブの全国の事務局が協力、アンケート調査には全国の当事者の皆さん(およそ300名)にもご協力いただきました。交通やスーパー、地域住民での交流など、まちづくりについて認知症の当事者に尋ねた全国規模の調査としては、日本で初めてのものです。今後の取り組みを考える上で、非常に重要なことが分かってきました。

調査結果の詳細や結果を分かりやすくまとめた「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」は、国際大学認知症プロジェクトのページ(<http://www.glocom.ac.jp/project/dementia>)から閲覧・ダウンロード可能です。



出典：「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」

チャレンジ達成の中心人物 ～RUN 伴 (ランとも)～



認知症の人もそうでない人も一緒にゴールに向かってタスキをつなぐ RUN 伴。自宅や施設の中で日々することがなかった認知症の人が、タスキをつなぐ目標ができたことで毎日に変化が現れます。当日は、イベントの主役として、それぞれのペースで歩いたり走って奮闘。その姿にサポーターも心動かされます。参加チームの地域交流も広がり、自分の地域でも行いたいと開催エリアは全国へ広がっています。

イベントの運営メンバー ～全日本認知症ソフトボール大会 (D シリーズ)～



認知症になっても何かに熱く打ち込み、挑戦し続けたいという認知症の人の声から企画された「全日本認知症ソフトボール大会 (D シリーズ)」では、認知症の人も大会の運営メンバーとなり準備を進めています。認知症の人の参加により、活動目的が明確になり、運営会議の場が認知症の人が暮らしやすい地域を考える機会にもなっています。

顔が見えるメッセンジャー ～認知症地域ネットワークフォーラム～



フォーラムのパネリストとして、認知症の経験を語った中村成信さん (左写真) は、「サポーターや支援者ではなく、認知症の人に寄り添うパートナーであって欲しい」と参加者へ語りかけました。参加者からは、初めて当事者の思いを聞いたことで自分が認知症になった時をイメージできたという感想が多く寄せられました。認知症の人が直接語りかけることが大きなメッセージになっています。

集いの場の主役 ～フレンドシップカフェ・品川～



街角のオシャレなカフェを利用して行なっているフレンドシップカフェは、美味しいコーヒーとおしゃべりを楽しみにご近所の人が集います。笑いの輪の中心にいるのは認知症の人やその家族。行政や医療機関への相談よりも先に、チラシを見てこのカフェに来たというご夫婦もいました。奥様に軽度の症状が見られるものの、このカフェに来て話していると安心するとニコニコ帰られるとか。認知症が縁でつながったご近所の情報交換の場は、“楽しいから” 継続中です。



G 8 認知症サミット後継イベントで若年認知症の人の立場から発言する丹野智文さん (41 歳) (写真全体)。認知症施策に関する意見交換会に招待された丹野さん (写真左下・右 2 番目)

STORY 1

社会を動かす認知症の人の声

2014 年 10 月、全国規模として日本で初めてとなる、認知症の人身による当事者団体「日本認知症ワーキンググループ (JDWG)」が設立されました。これまで介護の対象と見なされることの多かった認知症の人自身が声をあげることで、これまでの施策や医療ケア、まちづくりのあり方を見直していこうという動きが広まりつつあります。

11 月、東京で開催された G 8 認知症サミット後継イベントにも、JDWG のメンバーが登場しました。メンバーのひとり、丹野智文さん (41 歳) は、「認知症になっても、周囲の理解と支えがあれば出来る事がたくさんある。認知症Ⅱ終わりではないことを発信していきたい」と語りました。丹野さんは、全国で当事者として講演をするほか、地元の宮城県で、認知症の人による認知症の人のための相談活動 (おれんじドア) をスタートするなど、まちづくりの核を担う存在となっています。

2015 年 1 月に策定された新オレンジプラン (認知症施策推進総合戦略) でも、「認知症の人やその家族の視点の重視」が全体の施策を貫く柱となっており、各地のまちづくりや認知症に関する取り組みの中で、どのように認知症の人が参加するかが問われています。フレンドシップクラブでは、JDWG の皆さんはじめ、当事者による活動と連動しながら、各地のまちで、認知症の人が企画段階から参加する活動やまちづくりを進めています。

おしゃれを楽しむ喜びは女性としてみな同じ
～ M's すてーじモア「認知症の女性が主役」～ in 大阪



“主役は認知症の女性の方。全ての女性が眩しく輝く日”をテーマに、認知症の女性にメイクやハンドトリートメントなどを行なうイベントが、M's すてーじモア実行委員会（豊中事務局協力）により行われました。主旨に賛同したエステ関係の専門家や学生、ボランティアなど多様な職種が集結。ひとり一人の希望にそって丁寧に行なわれるメイキャップやヘアアレンジメントが、来場者のいつもと違う感覚を引き出し、華やいだ表情で帰る姿をスタッフ全員で見送りました。認知症という切り口で集った会場は、いつのまにか世代や職種を越えて、地域の情報を交換したり高齢社会についてざっくばらんに語りあえる場となっていました。

誰もが喜ぶ本物の舞台でともに楽しむ
～全日本認知症ソフトボール大会（D シリーズ）～ in 富士宮～



「認知症の人に本物の球場で試合を楽しんでもらいたい」。主催する富士宮事務局を中心とする D シリーズ実行委員会はその部分にこだわりました。ソフトボール世界大会の会場で開催を決定し、主旨に賛同した地元の野球チームも一緒に大会を準備。迫力ある富士山をバックに普段は入れない球場でプレーした選手達は、本物のアナウンサーのコールやスコアボードに大興奮。開放された観客席には、参加者の家族や友人のほか、いつのまにか近所の人までも試合に見入るほど、白熱した試合となりました。



認知症の人と地域の人が行なった清掃活動（写真全体）。
清掃活動を呼びかけるチラシには、「当日は認知症の本人も役に立ちたいとお掃除にきます」とある（写真右下）

多様な世代、職種の人を巻き込んでいくコツは？

■ 出会える場づくり ■

日常の暮らしの場で、認知症の人と地域の人が、自然な形でさりげなく出会える場をうみだすことが、地域づくりの第一歩

■ たのしい役割 ■

参加した人が好きな分野で得意なことを提供し、かつ喜んでくれる他者がいたと実感できることが、参加者の主体的な行動の原動力に

■ 地域を巻き込む ■

参加者の専門性を活かした役割分担がヤル気アップのポイント。巻き込みたい人材にアンテナを張り、多世代、異業種混合をめざして

STORY 2

キーワードは、“普通のおつきあい”

認知症と聞くと特別に身構えてしまったり、認知症の人と接するには専門的な資格や技術が必要と考えたりする人も少なくありません。しかし、認知症の人でも安心して暮らせる環境をつくるためには、圧倒的多数の一般の人の存在が重要になります。認知症があってもなくても、まちを構成する人々が、友人として、お店の人として、近所の人として、“普通のおつきあい”をしていくためには、何が必要なのでしょう。

町田事務局では、地元の商店街が主催する清掃活動で、商店街の人々や近所の親子連れなどに混ざり、認知症の人たちも活動をしています。

「自分ができることで、社会や地域の人に役立つことをしたい」という想いから生まれた企画です。参加者には、あらかじめ認知症の人も参加することはお知らせしていますが、当日、特別なアナウンスはありません。一緒に清掃活動をする中で、地域の人や子どもたちとの間に、自然と会話が生まれていきます。清掃が終わる頃、商店街の人が事務局メンバーにそつと耳打ちをしました。「皆さん、熱心に掃除してくださって、あなたが認知症の人が分かりませんでしたね」

認知症の人のための専用の場ではなく、立場や世代を超えて地域の様々な人々と“普通のおつきあい”ができる場をどのように増やしていくのか。各地での挑戦が始まっています。

…… 各地で広がる認知症をテーマにした地域づくり ……

かまくら磨き / 神奈川県鎌倉市



社会の役に立ちたいという仲間があつまり、鎌倉駅ガード下の壁などを清掃するボランティア活動の「かまくら磨き」。認知症の人の社会に貢献したいという思いからスタートしたこの活動は市民や中高生も一緒に行うようになり、生活の場を清掃するという達成感から、自然な交流が継続しています。

認知症 SOS ネットワーク模擬訓練 / 福岡県大牟田市



道に迷った認知症の人に周辺住民が声かけできる地域をめざして始まったこの訓練は、認知症の人や家族、専門家と、周辺住民が参加して小学校区単位で行なわれています。子どもや一般市民が参加するうちに、地域のネットワークや住民の交流を深める様々な機能を果たすことが分かり、地域全体へと活動へ広がっています。

きずなや（追分プロジェクト） / 奈良県奈良市



働き手がいない地域に働きたい認知症の人をマッチングするなど、地域の困りごとの解決に認知症の人が参加し、互いの課題が解決されることを目指した相互支援プロジェクト。奈良が発祥の地であった大和桶を復活させようと、地元の長老、大学生、認知症の人が一緒に開墾することで交流を深めながら、認知症の人がまちづくりを担っています。



認知症のまちづくりを行なう人々が交流した
D シリーズ前夜祭の様子（富士宮市）

STORY 3

認知症フレンドリーコミュニティ 日本の現状

G8 認知症サミットでも議題の柱のひとつとなった認知症フレンドリーコミュニティ（認知症の人にやさしいまち）。認知症の課題を、医療やケアだけで捉えるのではなく、人々の意識や交通インフラなども含めた地域のあり方と捉えるアプローチです。世界的には、英国の取り組みなどが注目されていますが、日本の現状は、どのようになっているのでしょうか？

認知症フレンドシップクラブでは、2014 年度、全国6カ所で、認知症地域ネットワークフォーラムを開催しました。このフォーラムは、まちづくりの先進事例から最新動向を学ぶと同時に、まちづくりに取り組む人たちが同士の対話を通じて、各地のまちづくりが加速することを目指しています。各地の対話からは、「取り組みが継続・成長していくためには、支援者だけでなく、認知症の人自身は、認知症の人身が具体的に参加することが不可欠」、「商店街や企業など、セクターを超えてまちづくりをしていくためには、一方的な協力のお願ではなく、お互いが得する仕組みづくりが大切」といった論点が導き出されています。

他の地域から大事な原則は学びつつ、それぞれのまちが、自分たちのまちにあった取り組みをスタートし、発展させていくことが求められています。認知症フレンドシップクラブは、認知症地域ネットワークフォーラムをはじめ、全国でまちづくりにチャレンジする実践者のためのプラットフォームづくりを推進しています。



認知症地域ネットワークフォーラム 2014 全国6ヶ所で開催！

RUN 伴に参加したエリアを中心に、全国6ヶ所でまちづくりについて語り合うフォーラムを当クラブ主催で行ないました。

- 北海道フォーラム 2015 年 2 月 21 日（土）会場：札幌市
- 東北フォーラム 2015 年 2 月 1 日（日）会場：盛岡市
- 関東フォーラム 2014 年 11 月 9 日（日）会場：東京都
- 中部フォーラム 2015 年 1 月 18 日（日）会場：焼津市
- 関西フォーラム 2014 年 7 月 27 日（日）会場：大阪市
- 中国フォーラム 2015 年 2 月 22 日（日）会場：東広島市

2015 年度は、会場を3地区増やし、全国9ヶ所にて開催予定です。詳しくは当クラブのHPをご確認ください。

※本事業は、日本財団の助成を受けて行なわれています

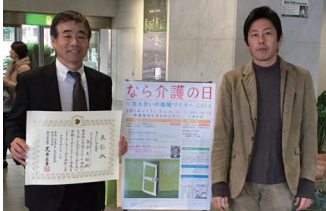
認知症フレンドシップクラブ
事務局の活動紹介



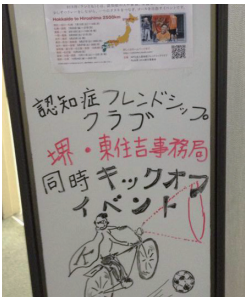
認知症フレンドシップクラブでは、行政や企業などと協働しながら、地域の拠点となる事務局を各地で開設。それぞれ特色ある活動を展開しています。

【奈良県】
奈良事務局

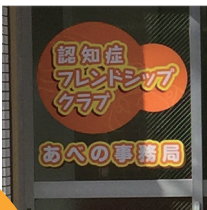
- ・奈良新聞より、「あたたか介護賞」家族・地域介護部門を奈良事務局として受賞
- ・D シリーズ、西日本でチーム結集し参加
- ・RUN 伴関西ブロック実行委員長として取りまとめ



- ・5月キックオフイベント（あべの事務局合同）開催
- ・認知症地域ネットワークフォーラム in 大阪、関西事務局合同で実施



【大阪府】
堺事務局



【大阪府】
あべの事務局

- ・5月キックオフイベント（堺事務局合同）開催
- ・富士宮当事者家族一行を旅サポ（大阪観光のコーディネート）
- ・事務局移転、あべの事務局となり看板設置

【千葉県】
千葉事務局

- ・認知症フレンドシップクラブ事務局ギャザリング運営
- ・認知症地域ネットワークフォーラム、ほか講演登壇
- ・井出理事長＝放送大学講義「認知症と生きる」撮影のため、フレンドシップメンバーへ取材

- ・D シリーズ（全日本認知症ソフトボール大会）第2回大会開催。前夜祭 120 名、当日 150 名参加
- ・認知症地域ネットワークフォーラム in 大阪、認知症・高齢者虐待防止フォーラム等への当事者講演のサポート
- ・日本認知症ワーキンググループ全国会議参加



【静岡県】
富士宮事務局

【新潟県】
魚沼事務局

- ・毎月第3日曜日、認知症カフェ『みちくさ cafe 風花』（十日町市本町4）
- ・毎月第3火曜日、認知症カフェ『だんだん、どうも』（南魚沼市塩沢）



【北海道】
函館事務局

- ・『安心して暮らせる福祉のまちづくり市民セミナー』函館市にて開催。120 名参加
- ・RUN 伴北海道ステージ運営



【北海道】
恵庭事務局

- ・RUN 伴告知で地元 FM 局出演。恵庭市役所での協力依頼、恵庭市医療と介護の連絡協議会にて説明
- ・市内お祭り「すずらん踊り」に RUN 伴 T シャツを着てメンバー 43 名参加

【東京都】
町田事務局

- ・認知症サポーター養成講座（町田市委託事業）4 回、サポーターステップアップ講座2回開催
- ・つながる場を創るワークショップ実施、45 名参加
- ・サポ友（買い物や音楽会など）、10 名サポート
- ・認知症の人「本人会議」実施
- ・成瀬が丘クリーンアップ大作戦、町内会とともに清掃活動実施



【東京都】
品川事務局

- ・フレンドシップカフェ2ヶ月事に開催。地元商店街でカフェのチラシ配り
- ・認知症サポーターステップアップ講座開催
- ・品川区内の各種職員向けの研修や介護・看護の専門学校にて、RUN 伴や当クラブの説明

【北海道】
札幌・石狩事務局

- ・「石狩市認知症家族のつどい」年4回開催
- ・「石狩市認知症サポーターステップアップ講座」（石狩市と共催）開催
- ・サポ友＝お墓参りのサポート



【北海道】
帯広事務局

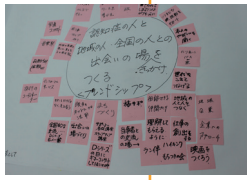
- ・「認知症サポーターへのフォローアップ研修」実施
- ・寄付付き自販機設置
- ・認知症地域ネットワーク会議参加
- ・motto おびひろがるプロジェクト、公開プレゼン報告

【東京都】
東京事務局

- ・認知症フレンドリージャパン・サミット 2014 開催（主催：国際大学、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ）
- ・G 8 認知症サミット後継イベント出展。フレンドシップクラブと RUN 伴についてのパネル紹介

事務局ギャザリング開催

全国の事務局代表者が集まり、各地の活動報告やアイデアの交換を行い、今後の活動の方向性を話し合う「事務局ギャザリング」を実施しています。このような地域を越えた交流からうまれる、事務局コラボ企画も活発になってきました。



- ・イベント「主役は認知症の女性。全ての女性が眩しく輝く日」第1回5月開催。
- ・認知症地域ネットワークフォーラム in 大阪開催。
- ・サポ友、大阪観光（通天閣と串カツ）。大阪メンバーと懇親会実施



【大阪府】
豊中事務局

2014年度 会計報告

収入

会費	656,000
事業収入	20,660
助成金収入	6,765,000
寄付収入	11,250,294
雑収入	2,022
合計	18,693,976

支出

事業費	10,310,102
管理費	4,047,995
合計	14,358,097

※ 2015 年度に、本年度（2014 年度）の助成金未使用分 2,511,000 円を返還。実質的収支差額は 1,824,879 円

2015年度 活動計画

- 1 認知症地域ネットワークフォーラム
 - ・RUN 伴で広がったご縁を継続的なネットワーク・活動へ
 - ・「まちづくりのハブ」理念と方法論の共有、まちづくりファシリテーター講座（合宿）
- 2 事務局の支援、開設サポート
 - ・新事務局支援 ・ギャザリングの発展
- 3 チャレンジ企画
 - ・日本認知症ワーキンググループなど当事者との連携
- 4 コミュニケーションの強化
 - ・ニュースレターの年2回発行、アニュアルレポートの発行、新パンフレットの活用

メディア掲載

《新聞》

読売新聞、産経新聞、朝日新聞、北海道新聞、茨城新聞、京都新聞など、28社以上

《テレビ》

広島ホームテレビ、FM e-niwa、他ローカルメディア多数

《雑誌、書籍》

おはよう21、スーパー総合医 認知症医療、旅のことは

《web》

greenz.jp（英語版）、介護ライブラリ、けあZine、ケアラーズジャパン



RUN伴を特集した記事がタリ一面トップに掲載された。（2014年10月22日 読売新聞）



認知症フレンドシップクラブ活動
カレンダー 2014/2015

2014 年

4 月

ニュースレター 2014 春号発行

5 月

堺事務局、東住吉事務局キックオフイベント
M's すてーじモア「認知症の女性が主役」開催
認知症地域ネットワークフォーラム（関西）

7 月

アニュアルレポート 2013/2014 発行
RUN 伴 2014・帯広スタート

8 月

認知症フレンドリージャパン・サミット 2014 参加

10 月

RUN 伴 2014・広島ゴール

11 月

RUN 伴+（プラス）初開催、小田原実施
奈良事務局「あたたか介護賞」受賞
富士宮事務局、魚沼事務局開設
G8 認知症サミット、RUN 伴パネル紹介
認知症地域ネットワークフォーラム（関東）

12 月

事務局ギャザリング開催
ニュースレター 2014 冬号発行

2015 年

1 月

認知症地域ネットワークフォーラム（中部）

2 月

認知症地域ネットワークフォーラム（東北、北海道、中国）

3 月

D シリーズ第2回開催（共催）
「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」完成



認知症地域ネットワークフォーラム。北海道、東北、関東、中部、関西、中国地域全6ヶ所で開催。合計4,699名が参加。



認知症フレンドリージャパン・サミット 2014。多くのメンバーが参加し、パネラーとしても活躍。



RUN 伴 2014：スタート帯広〜ゴール広島。走行距離 2500km。エントリー 4619 名（577 チーム）、沿道での多くの市民が応援。



G8 認知症サミットのブースで紹介された RUN 伴のパネル。



事務局ギャザリング。一年間に3事務局が誕生し、全国 14 事務局に。



アンケート調査・制作に関わった『認知症の人にやさしいまちづくりガイド』



第2回「D シリーズ（全日本認知症ソフトボール大会）」D シリーズ実行委員会と共催。150 名を超える参加者が全国から駆けつけた。

2014 年度、活動に参加してくださった皆様、
ご支援下さった全ての皆様に御礼申し上げます。
また RUN 伴などに格別のご支援頂きました
団体・企業の皆様も重ねて御礼申し上げます。

助成

shigeo & Megumi Takayama Foundation、公益財団法人日本財団、公益財団法人日本福祉弘済会
RUN 伴 2014 パートナー企業

株式会社 浅井ゲルマニウム研究所、アサヒグループホールディングス株式会社
たっくんのバームクーヘン屋さん、大日本印刷ソーシャルイノベーション研究所（協力）
H A R L E Y - D A V I D S O N テイク・徳島・ブルーパンサー
なかはら歯科医院、株式会社ファミリーマート、株式会社富士通研究所

RUN 伴 2014 後援

北海道認知症グループホーム協会
富士宮市、名古屋市、滋賀県、大津市、医療法人白桜会 小金沢歯科診療所
公益社団法人認知症の人と家族の会 滋賀県支部

寄付付き自販機

サントリービバレッジサービス株式会社

認知症プロジェクト

国際大学 GLOCOM、株式会社富士通研究所、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

研修事業受託

北海道帯広市、東京都町田市

認知症フレンドシップクラブ アドバイザリーボード

阿保順子（北海道医療大学特任教授）
岡田 誠 （株式会社富士通研究所 R&D 戦略本部 シニアマネージャー）
佐藤雅彦（認知症当事者、日本認知症ワーキンググループ共同代表）
田辺毅彦（北星学園大学文学部教授）
西村敏子（北海道認知症の人を支える家族の会事務局長）
八森 淳 （公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所地域医療研修センター副センター長）
前田隆行（町田市つながりの開理事長）
松本一生（松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長）
宮崎直人（有限会社グッドライフ代表、全国グループホーム協会会長、北海道グループホーム協会会長）
〈敬称略、五十音順〉

発行：NPO 法人 認知症フレンドシップクラブ
Publisher：井出 訓
Editor in Chef：三浦亜希子
Editors：徳田雄人、竹内 潔、金子智紀

活動に参加するには

・ イベント 研修・講座



RUN 伴、D シリーズ、認知症カフェ、事務局主催講演会など、認知症や地域づくりに関するイベントやセミナー等を随時行っています。最新情報は当クラブ HP や FB に掲載しておりますので、ぜひご参加ください。

・ サポ友、フレンドシップスポットになる



認知症の人をサポートする「サポ友」や、認知症の人が利用できるお店や場所の「フレンドシップスポット」を募集中です。詳細は HP をご覧ください。

ご支援をお願いいたします

・ 活動全般

当法人はみなさまからの会費とご寄付・助成金により運営されております。
安心して暮らせるまちづくりのため、みなさまのご支援お待ちしております。頂いたご寄付は当クラブの事務局運営費として使わせていただきます。

【 寄付・会費のお振込先 】

ゆうちょ銀行
九〇八支店 普通口座
口座番号：4317094
加入者名：認知症フレンドシップクラブ

・ 会員になる



当クラブ HP の「会員になる」よりお申込みいただけます。会員になると、メンバーとの情報交換や交流、サポ友の利用のほか、本レポート、ニュースレター、メルマガが届きます。

・ 事務局を立ち上げる



認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのためアクションを起こしたい方を募集しております。詳細は本部事務局（info@dfc.or.jp）までお問合せください。尚、事務局になるには一定の条件や審査があります。

・ RUN 伴への寄付

RUN 伴は、個人・企業・団体のみなさまのご協力・ご支援により運営されています。みなさまの応援お待ちしております。
※寄付一口（三千円）につき、希望者には記念 T シャツをプレゼントいたします。T シャツが在切れとなっている場合もありますので、ご希望の際は事前にお問合せの上、寄付フォームのメッセージ欄又は振込用紙備考欄に T シャツサイズと郵送先をご記入ください。
<http://runtomojimdo.com/>（RUN 伴寄付ページ）

【 寄付・会費のお振込先 】

ゆうちょ銀行
九〇八支店 普通口座
口座番号：4689283
加入者名：ラントモ実行委員会

